

# 在宅医療・介護連携推進事業 急変時等課題共有にかかる 情報交換会の開催について



蓮田市長寿支援課

# 情報交換会の概要

## ■急変時等課題共有にかかると情報交換会を開催

○令和7年12月18日(木) 19~21時

蓮田市役所 302会議室

○構成メンバー

訪問診療実施医療機関／有床医療機関／

訪問看護ステーション／居宅介護支援事業所／

訪問介護事業所／介護施設／地域包括支援センター／

蓮田市消防本部／蓮田市長寿支援課

○情報交換会の目的

「急変時」の課題について、市民と医療介護関係者は何ができるかを情報交換し、次年度の情報交換会にて対応の検討につなげることを目指します。

# 令和6年度情報交換会でみえてきたこと

1. 「在宅で療養生活を送る高齢者の急変時」について、現状の把握と共有
2. 「急変時対応について、困っていること・問題と感していること」について、現状の把握と共有

\* 急変時のとらえ方は、人によって異なる

>> 医療的な急変と、医療的でない急変の判別は難しい  
対応方法に迷った時、相談先も分からないことがある

\* 急変対応は、予測されたことを予め共有し、  
変化気付けるよう、平時の状態も共有する必要がある

>> 医療にかかっていない・気付く人がいない場合も、  
状況は様々で、対応方法も個別の検討が必要

# 令和7年度情報交換会のテーマ

## 令和6年度にみえた課題

個々人によってとらえ方が異なる「急変時」に対応するために、医療介護関係者は、どのような支援ができるのか

## 令和7年度情報交換会テーマ

- ・いつもと違う状況があったとき(急変時)に、「本人や家族がどう対応するか」、「判断や相談をするために、誰に連絡をとるか」を考えるきっかけをつくるために、どうしたらいいでしょうか。

★上記のために、市民と医療介護関係者は、なにができるでしょうか。

### ●「通院・入院時あんしんセット」に関するアンケート報告(資料3-2)

- ・元気な高齢者の実態把握として、実施
- ・老人クラブ17か所、会員723人(令和7年4月1日時点)対象  
17クラブから、526件の回答(回答率 72.8%)
- ・実施期間:令和7年9月5日(金)～10月31日(金)

# 令和7年度情報交換会のテーマ

○急変時の対応について、事前にACP※1がおこなわれていれば、慌てずに対応できる見込みがある。  
個別性の高い※2市民それぞれをカバーするためのシステムづくりをどう進めていくか。

## ※1 ACP

自分が希望する人生の最終段階の治療やケアについて、家族や大切な人たち、医療スタッフなどと、繰り返し話し合うプロセスを「アドバンス・ケア・プランニング（人生会議）」という。

## ※2 個別性の高い

生活状況（在宅生活、施設生活、同居家族の有無など）、サービス利用状況（医療・介護サービス利用状況やサービスの利用頻度）によって、対象者の置かれている状況が様々であるということ。  
そのため、急変時対応の方法も個別の検討が必要。

# 令和7年度情報交換会でのご意見

\*「急変時の希望などを確認できていない」と感じる場面があった。

・症状が重い人、悪化している人、サービス導入時期の人

→ 急変時の希望を尋ねやすい

希望を選択するためには「急変時に何をされるのか」を分かるように伝えることが課題

・症状が安定している人、元気な人

→ 医療サービスが入っていない人

→ 急変時について、考えるきっかけが少ない

・一人暮らしの人

→ 利用者が元気だと、ご家族と会わない事もある

→ 状況共有先が不明な場合がある

# 令和7年度情報交換会でのご意見

## \* 急変時に関わる媒体物品へのご意見

### ・蓮田市エンディングノート(地域支援担当所管)

症状が安定している元気な人が、今後しなくてはならないことを整理するきっかけになる

退院支援の時に、どこで最期を迎えたいかわかるとスムーズ  
エンディングノートをあんしんセットに入れているとよい

### ・通院・入院時あんしんセット(地域支援担当所管)

単身のかたは、救急搬送時に持ち物をまとまっているのでよい  
単身で元気なかたの情報共有先がわかるとよい

入院時に、介護状況も踏まえた退院支援を開始できる

# 令和7年度情報交換会でのご意見

## \* 急変時に関わる媒体物品へのご意見

### ・救急医療情報キット(高齢福祉担当所管)

関係者の連絡先やかかりつけ医療機関情報があるため、  
救急搬送時、対象者に意識障害があったときにも有効  
内容が更新されていない事もあり、課題  
救急キットに、急変時のACP記入する欄があればよい

### ・普及啓発動画(消防総務課所管)

心肺停止で救急要請した時の活動の動画  
施設での救急情報書作成時の活用を目的に作成  
リアリティのある内容のため、拒否感をもつかたもいた

# 令和7年度情報交換会でのご意見

## \* 急変時に関わる媒体物品へのご意見

### ・急変時の意向を尋ねるフォーマット

#### \* 延命治療の希望 (施設では入所時などに聞き取り)

既往歴、現病歴、延命治療の希望、連絡先など

「延命治療」の具体的内容、高齢者の延命治療の理解が難しい

#### \* 看取りの同意書 (施設では、終末期入ったら、聞き取り)

看取り、点滴、胃ろうなどの選択肢を提示し、ご家族が判断

看取り希望となったら、救急搬送しない

救急搬送希望がない時、どこまで治療するかを検討が難しい

在宅サービス導入時に作成を開始している事業所あり

最低限の情報を聞き取り、救急搬送するか判断時に活用

内容に応じて、エンディングノートと連携した活用

### ・急変時対応の環境整備の必要性

見守りカメラ: 単身のかたや認知症のかたの変化に気づく

キーボックス: 単身で施錠している際に支援するため活用

急変時対応にまつわる準備を情報提供できるとよい

# 令和7年度情報交換会でのご意見

## \* 急変時の希望などを、準備できていない理由

- ・今後たどる高齢者のイメージがわからない  
例) 70歳のかたが、80~90歳の自分をイメージできない
  - ・人間が死ぬときにどうなるのか、わからない
  - ・「延命処置」とは、何をするのかわからない  
また、その説明をすべて医師がおこなうにはマンパワー不足
- 年齢に応じて起こる変化や、急変時・人生の最終段階に  
選択する事・おこなわれる事を情報提供することで、  
急変時の対応を考えるきっかけになりうる
- ・「終活」の項目に、財産や物の整理だけでなく、本人や家族の  
状態悪化時(急変)があると考えるきっかけになるのでは
  - ・終活、急変時対応がネガティブと、拒否感を抱くかたがいる
- 急変時対応や終活で準備する事項を、ポジティブに  
情報提供することで、関心をもつかたが増える可能性がある

# 令和7年度情報交換会でみえてきたこと

## \* 急変時の希望の確認をすすめられるような体制の整備が必要

- ・急変時にまつわることがらの情報提供
  - 急変時の希望を選択できるような情報提供
  - 今後の自分の変化、亡くなるときの過程、準備すること、急変とは、救急搬送とは、延命処置とは
- ・既存媒体のさらなる活用方法の検討
  - どんなかたに、どのように、何を活用してもらうか
- ・「ポジティブな終活」の展開
  - 歳まで生きるための終活という、前向きなイメージ戦略
  - 財産だけでなく、本人や家族の急変時・最終段階の希望
  - 希望を実現するために、事前にどのような準備をしていくか

# 令和8年度情報交換会に向けて

## ○現状○

- \* 急変時のとらえ方は、人によって異なる
- \* 急変対応は、予測されたことを予め共有し、変化気付けるよう、平時の状態も共有する必要がある

## ○目指す姿(仮説)○

急変時対応について、事前に**ACP(人生会議)**がおこなわれていれば、慌てずに対応できる。

- ・急変時にまつわることがらの周知啓発
- ・既存媒体のさらなる活用の検討
- ・「ポジティブな終活」の展開

